The KSTS/RR-88/003
12 Mar. 1988
TAO of
TEX

Notes for Formulas Part I

by

Ihsakat Aredon

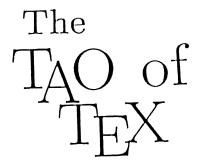
Ilısakat ∧redon

Department of Mathematics Faculty of Science and Technology Keio University

Hiyoshi 3-14-1, Kohoku-ku Yokohama, 223 Japan

Department of Mathematics Faculty of Science and Technology Keio University

© 1988 KSTS Hiyoshi 3-14-1, Kohoku-ku, Yokohama, 223 Japan



Notes for Formulas

Part I

Version 0

WITH NUMEROUS EXPLICIT ILLUSTRATIONS

By Ihsakat Aredon, Ph.D.

To TEXnician

序文

"AMS-TeX"の入門書である "The TAO of TeX(version 0), Gournet Guide ~"を発行してほぼ1ヶ月が過ぎ去り、早くもその続編"Notes for Formulas(Part I)"が完成することになった。今回のレポートには、特に関数近似に関連する数式の例題が豊富に含まれている。さらに、"AMS-TeX"を使って数式を記述する時に、多くの人が疑問を持つと思う"数式の縦ぞろえ"に関して、詳細な説明を加えた。さらに、"参考文献の記述形式"に関しても、実例を中心に述べたつもりである。しかし、このレポートはジックリ読むようなものでなく、パラパラっと食後に寝っ転がって見る程度のものなのであしからず。

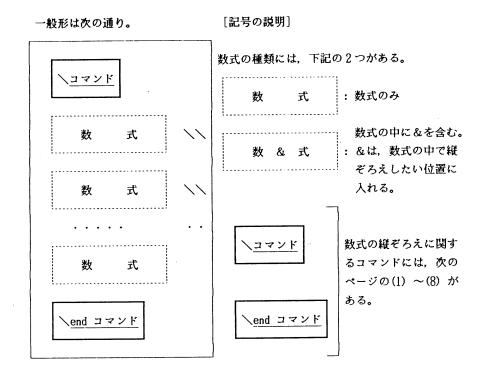
まだ、実際に、"AMS-TeX"を使っていない人は、早く使って見て欲しい。何故なら "TeX"の本当の良し悪しは、それを本当に使用してみて、初めて分かるからである。 とにかく、"TeX"の好き嫌いを言う前に一度試してみてほしい。嫌いになるは、それからでも遅くない。

最後に、今回もいろいろなコメントや御意見をいただいた慶應義塾大学理工学部数理科学科の"AMS-TeX" 愛好者の皆さんどうも有り難う。そろそろ"ドラクェⅢ"に飽きた皆さん、次は、"TeX"が君を待っている。ただ、その前に、"AMS-TeX"で記述する内容を考え出さねばならないのだが。

著者 3.12.1988 目次

```
数式の縦ぞろえ
1-1
      数式の縦ぞろえに関するコマンド
1-2
       ∖align ... \endalign の例
1-3
       \split ... \endsplit の例
1-4
       \align ... \split ... \endsplit .. \endalign の例
1-5
       \multline ...\endmultline の例
1-6
       \gather ...\endgather の例
1-7
       \aligned ... \endaligned の例
1-8
       \topaligned ... \endaligned, \botaligned ... \endbotaligned の例
1-9
       \gather ...\endgather の例
1-11
       \alignat ... \endalignat の例
1-12
1-13
       | xalignat... | endxalignat, | xxalignat... | endxxalignatの例
1-14
       ∖cases ... \endcases の例
1-15 参考文献の書き方
       (1) 参考文献の参照
1-15
       (2) 参考文献のコマンド
       (3) Reference の実例
1-16
         [1]一般的な雑誌の例, [2] \vol と\pageしを省略した例
1-16
          [3] 本の中に論文が掲載されている場合(\inbookの例)
         〔4〕同じ著者の論文が複数ある場合 (\manybyと\bysame)
1 - 17
         〔5〕本を参考文献にあげる場合(\bookの例)
         [6] 文献番号の形式を変更したい場合(\key の例)
1-18
         〔7〕 \toappearの例
         [8] \toappearを使わずに to appearを出力する例
1-19
         (9) \paperinfo の例, (10) \paperinfo の例
         (11) \bookinfoと\finalinfo の例
1 - 20
          [12] 2つの文献を1にする場合(\moreref の例)
1-21
          参考文献の実例
1-22 Poor Man's Bold
1-22 TeXt Styleで数字のboldfaceの出力の仕方
1-23 参考文献
2-0
   数式に関する例題 << インデックス >>
2-1 -
      数式の縦ぞろえに関連する例題
2-44 -
3-0
    APPENDIX
      3-1
```

○ 数式の縦ぞろえ



- \$\$・・・\$\$の中でページがえを制御するコマンドとして次のものがある。
- (イ) 数式の途中の\\でページがえしてもよい場合には、\\の後に \allowdisplaybreak_を入れる。
- (ロ) 数式の途中の\\でページがえさせたい場合には、\\の後に、 <u>\displaybreak</u> を入れる。
- (ハ) 数式の途中の何処の\\でページがえしてもよい場合には, \<u>コマンド</u>の前に\<u>allowdisplaybreaks</u>を入れる。
- [注] (1) \mathbreak, \nomathbreak, \allowmathbreakは, \\$..... \\$の中では使用できない。これらのコマンドは, \\$.... \\$の中でのみ使用可能。

∖end コマンド

には次のものがある。

- (1) \align ... \endalign 各数式に数式番号をつけることができる。
- (2) \split....\endsplit\$\$\$\$全体を1つにまとめて番号をつけたいときにこれを使う。
- (3) \multiline \endmultiline 縦ぞろえ不要,最上段の式は左ずめ,最下段の式は右ずめ,真ん中に位置する式は,センタリングされる。
- (4) \gather\endgather縦ぞろえ不要で、各々の式のセンタリングのみを行う。個々に \$\$ で囲むよりも 行間がつまる。
- (5) \aligned\endaligned 2列以上の同時縦ぞろえ。 \topaligned, \botaligned
- (6) \gathered....\endgathered \gatherの\aligned版であり、各数式はセンタリングされる。
- (7) \alignat\endalignat 何列にもまたがる縦ぞろえに使用する。各列の幅を調節するコマンドとして \xalignat, \xxalignat がある。
- (8) \cases\endcases 数式の場合分けに用いる。
- [注] (1) 数式と数式の間のスペースをとるのに \quad

及び

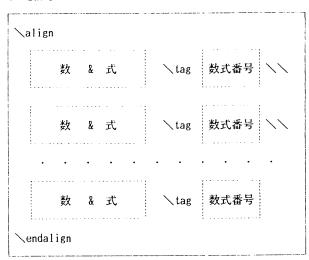
\qquad (=\quad\quad) がある。 $|(1) \quad |\psi_{x_0}(f)| = |f(x_0)| < \epsilon \quad f \in U_{A,\epsilon}$

(2) $|\psi_{x_0}(f)| = |f(x_0)| < \epsilon$ $f \in U_{A,\epsilon}$

\$\$|\psi_[x_0](f)|-|f(x_0)| {\epsilon\qquad f \in U_[\(\lambda\)\epsilon)\tag2\$\$

(1) ∖align \endalign

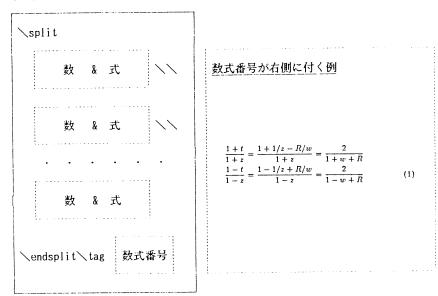
[一般形]



- [注] (1) & 記号は、各数式を1列に合わせる所に入れる。
 - (2) 数式番号は、各数式に付けることができる。

(2) \split\endsplit

[一般形]



[注](1)数式番号は、全体の数式をまとめて1つだけ付く。左側に数式番号が付く場合いには先頭の数式に、右側に数式番号が付く場合には、最下段の数式に番号が付く。

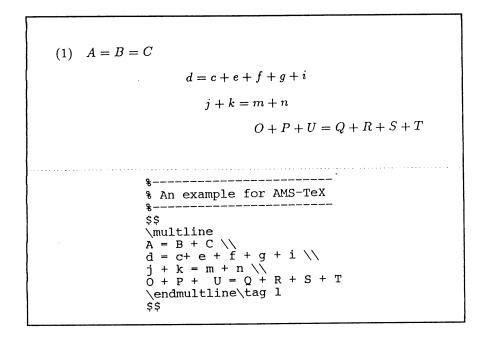
● \align ... \split ... \endsplit .. \endalign の例

```
(1) 数式番号が左側に付く例
                        L(\alpha x) = \Lambda(ax) - i\Lambda(iax)
    (1)
                                 = a\Lambda(x) - ia\Lambda(ix) = aL(x)
                         L(ix) = \Lambda(ix) - i\Lambda(-x)
     (2)
                                 = i[\Lambda(x) - i\Lambda(ix)]
                                  =iL(x).
% An example for AMS-TeX
$$
\align
   L(\alpha x) & = \Lambda (ax)-i\Lambda (iax)\tagl \\ & = a \Lambda (x)-ia \Lambda(ix)=aL(x) \\ \end{pmatrix}
   \split
      L(ix) &= \Lambda (ix) -i\Lambda (-x)\\
&= i[ \Lambda (x)- i\Lambda (ix)]\\
&= iL(x).
   \endsplit\tag2
\endalign
```

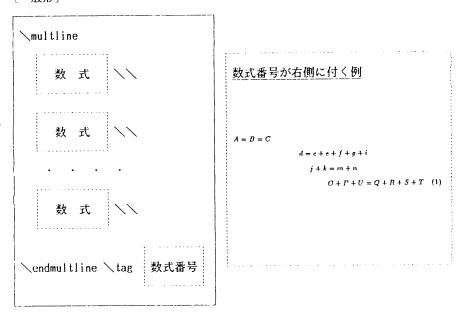
```
(2) 数式番号が右側に付く例
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       (1)
                                                                                                                                                                                                L(\alpha x) = \Lambda(ax) - i\Lambda(iax)
                                                                                                                                                                                                                                                                       = a\Lambda(x) - ia\Lambda(ix) = aL(x)
                                                                                                                                                                                                         L(ix) = \Lambda(ix) - i\Lambda(-x)
                                                                                                                                                                                                                                                                           = i[\Lambda(x) - i\Lambda(ix)]
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          (2)
                                                                                                                                                                                                                                                                           =iL(x).
% An example for AMS-TeX
 \TagsOnRight
     align
                       L(\alpha x) = \Lambda (ax)-i\Lambda (ax) + \Lambda 
                          \split
                                                L(ix) &= \Lambda (ix) -i\Lambda (-x)\\
&= i[ \Lambda (x)- i\Lambda (ix)]\\
&= iL(x).
                            \endsplit\tag2
        \endalign
   $$
```

[注](1)と(2)では、数式番号の付く数式の位置が異なる。

(3) \setminus multline ... \setminus endmultline

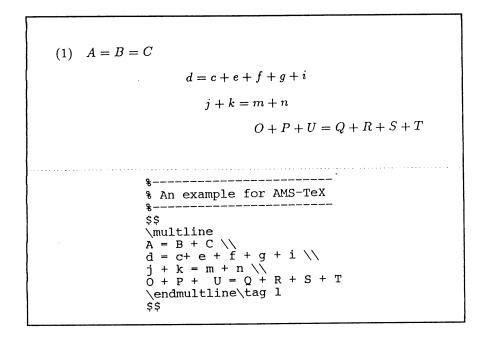


[一般形]

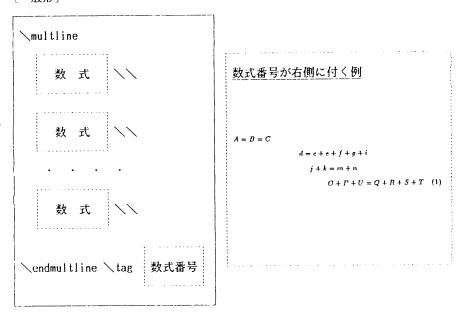


[注] (1) 数式番号は、全体の数式をまとめて1つだけ付く。左側に数式番号が付く場合いには先頭の数式に、右側に数式番号が付く場合には、最下段の数式に番号が付く。

(3) \setminus multline ... \setminus endmultline



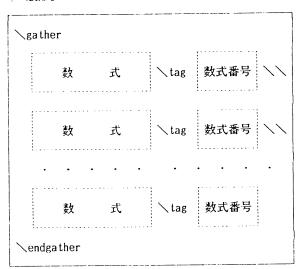
[一般形]



[注] (1) 数式番号は、全体の数式をまとめて1つだけ付く。左側に数式番号が付く場合いには先頭の数式に、右側に数式番号が付く場合には、最下段の数式に番号が付く。

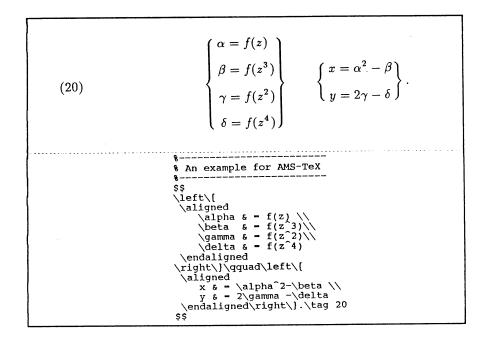
(4) \gather\endgather

[一般形]

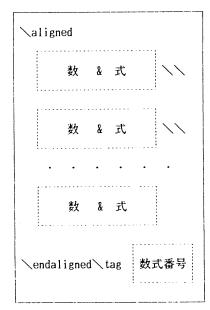


- [注](1)数式番号は、各数式に付けることができる。
 - (2) 各数式は、各々センタリングされる。
 - (3) 各数式を\$\$...\$\$ で囲んで記述するよりも、式と式の間隔が狭まる。

(5) \aligned....\endaligned



[一般形]



[注] (1) 数式番号は、全体をまとめて1つしか付かないが、上の例のように中央に付く。

• \topaligned \endtopaligned, \botaligned \endbotaligned

```
(1) \topaligned ...\endtopaligned \mathcal{O}[\delta]

(21) \alpha = f(z) x = \alpha^2 - \beta
\beta = f(z^3) \quad y = 2\gamma - \delta
\gamma = f(z^2)
\delta = f(z^4)

$$\frac{\sqrt{\topaligned}}{\topaligned} \times f(z) \\ \topata \delta = f(z^2) \\ \topaligned \topaligned
\text{\quad}{\topaligned} \times f(z^2) \\ \topaligned \topaligned
\quad
\quad
\topaligned
\quad
\quad
\topaligned
\quad
\quad
\topaligned
\quad
\qu
```

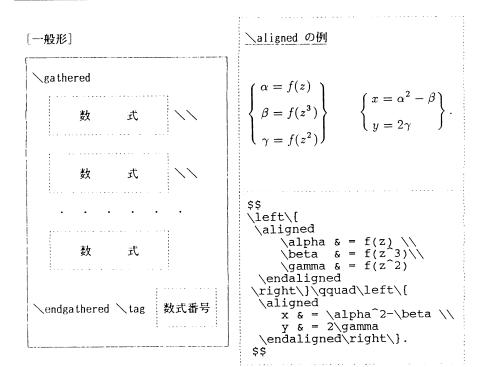
```
(2) \topaligned ... \endtopaligned \topaligned \topal
```

```
(3) \botaligned ... \endbotaligned \topaligned ... \endbotaligned \mathcal{O}[M]
\alpha = f(z)
\beta = f(z^3)
\gamma = f(z^2)
(23) \delta = f(z^4) \quad x = \alpha^2 - \beta
y = 2\gamma - \delta
\begin{cases} \$ \\ \text{botaligned} \\ \text{alpha } \$ = f(z) \\ \text{beta } \$ = f(z^3) \\ \text{gamma } \$ = f(z^2) \\ \text{delta } \$ = f(z^4) \\ \text{endbotaligned} \\ \text{qquad} \\ \text{topaligned} \\ x \quad \$ = \text{alpha}^2 - \text{beta} \\ y \quad \$ = 2 \text{gamma} - \text{delta} \\ \text{endtopaligned} \text{tag 23} \\ \$ \end{cases}
```

```
(4) \botaligned .... \endbotaligned \botaligned .... \endbotaligned \mathcal{O} \( \text{M} \) \\ \alpha = f(z) \\ \botaligned \in f(z^2) \quad x = \alpha^2 - \botaligned \\ \alpha = f(z^4) \quad \\ \alpha = f(z^2) \\ \alpha =
```

(6) \gathered....\endgathered

```
\begin{cases} \alpha = f(z) \\ \beta = f(z^3) \\ \gamma = f(z^2) \end{cases} \begin{cases} x = \alpha^2 - \beta \\ y = 2\gamma \end{cases}.
\begin{cases} \begin{cases} \begin{cases} 1 \\ \text{oligned} \end{cases} \\ \text{oligned} \end{cases} \\ \text{oligned} \\ \text{oligned} \end{cases} \\ \text{ogamma } \delta = f(z) \\ \text{ogamma } \delta = f(z^2) \\ \text{ondaligned} \end{cases} \\ \text{oright} \end{cases} 
\begin{cases} \begin{cases} \text{ogathered} \\ \text{ogathered} \end{cases} 
\begin{cases} x = \alpha^2 - \beta \\ y = 2\gamma \end{cases}
```

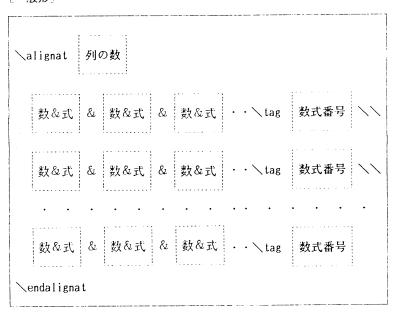


[注] (1) 数式番号は、全体をまとめて1つしか付かないが、中央に付く。

(7) \alignat\endalignat

```
(23) \quad V_{i} = v_{i} - q_{i}v_{j}, \quad X_{i} = x_{i} - q_{i}x_{j}, \quad U_{i} = u_{i}, \quad \text{for } i \neq j;
(24) \quad V_{j} = v_{i}, \quad X_{j} = x_{j}, \quad U_{j} = u_{j} + \sum_{i \neq j} q_{i}u_{i}.
\overset{\$}{}_{i} = u_{i} + \sum_{i \neq j} q_{i}u_{i}.
```

[一般形]



xalignat ... endxalignat, xxalignat... endxxalignat

(1) \xalignat ... \endxalignat の例

(23)
$$V_i = v_i - q_i v_j$$
, $X_i = x_i - q_i x_j$, $U_i = u_i$, for $i \neq j$;
(24) $V_j = v_i$, $X_j = x_j$, $U_j = u_j + \sum_{i \neq j} q_i u_i$.

(2) \xxalignat...\endxxalignatの例

$$V_i = v_i - q_i v_j,$$
 $X_i = x_i - q_i x_j,$ $U_i = u_i,$ for $i \neq j;$ $V_j = v_i,$ $X_j = x_j,$ $U_j = u_j + \sum_{i \neq j} q_i u_i.$

[注] (1) x が増えるに従い、各列の空白の幅が増える。ただし、xxが最大の横幅に広がるコマンドである。\xxalignat の場合には、\tag コマンドが使えないので自分で数式番号をコントロールする必要がある。

(8) \cases\endcases

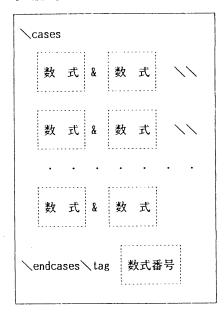
$$f(x,y) = \begin{cases} 2^{2n} & \text{if } \frac{1}{2^n} \le x < \frac{1}{2^{n-1}}, & \frac{1}{2^n} \le y < \frac{1}{2^{n-1}}, \\ -2^{2n+1} & \text{if } \frac{1}{2^{n+1}} \le x < \frac{1}{2^n}, & \frac{1}{2^n} \le y < \frac{1}{2^{n-1}}, \\ 0 & \text{otherwise.} \end{cases}$$

$$\begin{cases} \$\$ \\ f(x,y) = \\ \text{cases } 2^{2n} & \text{text[if]} \neq 0 \\ \text{dfracl} \{2^n\} & \text{text[otherwise]}. \end{cases}$$

$$\begin{cases} 0 & \text{text[otherwise]}. \end{cases}$$

$$\begin{cases} \$\$ \\ \text{endcases} \end{cases}$$

[一般形]



[注](1)数式番号は1つしか付かない。

○ 参考文献の書き方

参考文献の書き方は、大まかに述べると下記のようになる。

- (1) 参考文献の参照:本文の中で {By \cite {10, Theorem 4 } と書くと, By [10, Theorem 4] の形式に変換される。
- (2) 参考文献のコマンド:各文献の順序は使用者が指定する。

\Refs 見出しの印刷をする。

∖ref 1つの文献の始まり。以下の各項目は、オプショナルで、順序 も自由である。

\no 参考文献番号(\key キーワード)

\by 著者(あるいは, \manyby, \bysame)

∖pages ページ(1ページだけのときは∖page)

∖paper 論文のタイトル (本の中の場合には,\inbookで本の名前

を指定する

∖yr 年

∖vol 巻

\jour 雑誌名(本の中の場合には, \inbook)

\toappear to appear をプリントする

\issue 特集号のときにその標題を指定する

\endref 1つの文献の終わり

[注 1] \Refsを使うと、通常、センタリングされた、Referencesの文字の見出しを印刷するが、この見出しを別の文字に換えることもできる。例えば、見出しをBibliographiesに換えるには、

\Refs\nofrills {Bibliographies}

とすればよい。

[注 2] 本の場合には、\paper の代わりに\bookを使う。この場合には、

\publ 出版社

∖publaddr 出版社の住所

が利用できる。

[注 3] 説明用の \paperinfo, \bookinfo, \finalinfo, また, 2 つの文献を 1 つにまとめる \moreref がある。

(3) Reference の実例

〔1〕一般的な雑誌の例

```
7. S. S. Chern, Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean space and their applications to uniqueness theorems, J. Math. Mech. 8 (1959), 947-955.

\text{ref} \text{no 7\by S. S. Chern} \text{paper Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean space and their applications to uniqueness theorems \text{jour J. Math. Mech. \vol 8 \yr 1959} \text{pages 947--955} \text{endref}
```

〔2〕 \vol と \pages を省略した例

7. S. S. Chern, Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean space and their applications to uniqueness theorems, J. Math. Mech. (1959).

\no 7\by S. S. Chern
\paper Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean
space and their applications to uniqueness theorems
\jour J. Math. Mech. \yr 1959

\endref

〔3〕本の中に論文が掲載されている場合(\inbookの例)

 R. E. Borland, The AQ Algorithm, in "Sparse Matrices and their Uses," Academic Press, London, 1981, pp. 309-314.

> \ref \no 3 \by R. E. Borland \paper The AQ Algorithm \inbook Sparse Matrices and their Uses \publaddr London \yr 1981 \pages 309--314 \endref

〔4〕同じ著者の論文が複数ある場合(\manyby と \bysame の例)

```
7. S. S. Chern, Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean space and
       their applications to uniqueness theorems, J. Math. Mech. 8 (1959),
       947-955.
                   , On Riemannian manifolds of four dimensions, J. Math.
       Mech. 8 (1959), 947-955.
 \ref
   \no 7\manyby S. S. Chern
\paper Integral formulas for hypersurfaces in Euclidean
   space and their applications to uniqueness theorems \jour J. Math. Mech. \vol 8 \yr 1959 \pages 947--955
 \endref
윰
용
 \ref
    \bysame
    \no 8
   \paper On Riemannian manifolds of four dimensions
   \jour J. Math. Mech. \vol 8 \yr 1959 \pages 947--955
 \endref
```

〔5〕本を参考文献にあげる場合 (\bookの例)

[6] 文献番号の形式を変更したい場合(\key の例)

(7) \toappearの例

```
6. S. B. Alexander, Reducibility of Euclidean immersions of low codimension, Thesis, Univ. of Illinois, J. Differential Geometry (to appear).

\text{ref} \toappear \\ no 6 \\ by S. B. Alexander \\ paper Reducibility of Euclidean immersions of low codimension \\ paperinfo Thesis, Univ. of Illinois \\ year 1967 \\ jour J. Differential Geometry \\ endref
```

〔8〕 \toappearを使わずに to appearを出力する例

```
6. S. B. Alexander, Reducibility of Euclidean immersions of low codimension, Thesis, Univ. of Illinois. (J. Differential Geometry, to appear.)

ref
no 6
by S. B. Alexander
paper Reducibility of Euclidean immersions of low codimension
paperinfo Thesis, Univ. of Illinois
year 1967
finalinfo (J. Differential Geometry, to appear.)
endref
```

(9) \paperinfo の例

[3]. N. R. Wallach, Unpublished manuscript notes on the Borel-Weil theorem.

\text{ref}
\no [3]
\by N. R. Wallach
\paperinfo Unpublished manuscript notes on the
Borel-Weil theorem
\endref

(10) \paperinfo Ø ₺ ₪

5. J. Bruna and B. Korenblum, On Kolomogorv's theorem, the Hardy-Littlewood maximal function and radial maximal function, preprint.

\[
\text{ref} \\
\no 5 \\
\text{by J. Bruna and B. Korenblum} \\
\text{paper On Kolomogorv's theorem, the Hardy-\linebreak} \\
\text{Littlewood maximal function and radial maximal function} \\
\text{paperinfo preprint} \\
\text{endref}
\]

川 \bookinfo と\finalinfo の例

```
[4]. N. Bourbaki, "Groupes et algèbres de Lie," Eléments de Mathématique,
Hermann, Paris, 1968. Chap.IV-VI.

\text{ref}
\no [4]
\do N. Bourbaki
\dook Groupes et alg\graveaccent ebres de Lie
\dookinfo El\'ements de Math\'ematique
\doubli Hermann
\doubladdr Paris
\yr 1968
\finalinfo Chap.IV--VI.
\endref
```

[12] 2つの文献を1つにする場合 (\moreref の例)

4. L. Auslander, On the Euler characteristic of compact locally affine spaces, Comment. Math. Helv. 35 (1961), 25-27; II, Bull. Amr. Math. Soc. 67 (1961), 405-406.

REFERENCES FOR CHAPTER 10

\Refs\nofrills(REFERENCES FOR CHAPTER 10)
\ref

A sample Document for AMS-TeX

References

[10.1] Athans, M., and P. L. Falb, "Optimal Control: Introduction to the Theory and Its Applications," MacGrraw-Hill, New York, 1966.

[10.2] Bosarge, W. E., and O. G. Johnson, Error bounds of high-order accuracy for the state regulator problem via piecewise polynomial approximations, SIAM J. on Control 9 (1971), 15-28.

[10.4] ... Numerical properties of the Ritz-Treffitz algorithm for optimal control, Communications of the ACM 14 (1971), 402-406.

[10.5] Brauer, F., and J. Nohel, "Ordinary Differential Equations," W. A. Benjamin, Inc., New York, 1966.

[10.6] Schultz M. H., A Ritz method for an optimal control problem, Yale Computer Science Research Report 71-9.

() Poor Man's Bold

現在のAMS-TeX には、小文字のギリシャ文字やいくつかの数学記号の boldface の fontが存在していない(将来、提供される予定ではあるが?)。そこで、次のような コマンドを定義することによって、文字のboldタイプを便宜的に印刷することができる。

\def\pmb#1 {\setbox0=\hbox {#1}\
\kern-.025em\copy0\kern-\wd0\
\kern.05em\copy0\kern-\wd0\
\kern-.025em\raise.0433em\box0\}

Test of ∞. Next is abcde.

[使用例] Greek let

Greek letters αβγδεζηθικλμυξοπροτυφχψω

```
(10.4) \qquad -L[\mathbf{u},\mathbf{x};\lambda,\gamma] \equiv J[\mathbf{u},\mathbf{x}] \\ + \int_0^1 (\lambda(t),-D_t\mathbf{x}(t)+A(t)\mathbf{x}(t)+B(t)\mathbf{u}(t))\,dt + (\gamma,\mathbf{x}(0)-\mathbf{x}_0). \langle \det[\mathbf{y},\mathbf{x}] = \int_0^1 (\lambda(t),-D_t\mathbf{x}(t)+A(t)\mathbf{x}(t)+B(t)\mathbf{u}(t))\,dt + (\gamma,\mathbf{x}(0)-\mathbf{x}_0). \langle \det[\mathbf{y},\mathbf{x}] = \int_0^1 (\lambda(t),-D_t\mathbf{x}(t))\,dt + (\lambda(t),\mathbf{x}) = \int_0^1 (\lambda(t),\mathbf{x})\,dt + (\lambda(t),\mathbf{x})\,dt + (\lambda(t),\mathbf{x}) = \int_0^1 (\lambda(t),\mathbf{x})\,dt + (\lambda(t),\mathbf{x})\,dt +
```

○ TeXt Style(\$... \$)で数字のboldfaceの出力の仕方

\$ vbox {\bf 数字} \$

〔参考文献〕

- [1] D.E. Knuth, The TeXbook, Addison-Wesly, 1984.
- [2] Michel D. Spivak, "The Joy of TeX-- A Gourmet Guide to Typesetting with the AMS-TeX Macro Package", Addison Wesley, 1986.
- [3] 大野義夫, AMS-TeX, bit Vol.20 No.3, pp.351-362 (1988).
- [4] 1. Aredon, The TAO of TeX, KSTS/RR-88/002, Keio Univ. (1988).
- [5] M. H. Schultz, Spline Analysis, Prentice Hall (1973).
- $[\,6\,]$ J. A. Shohat and J. D. Tamarkin, The Problem of Moments, AMS (1943).

KSTS/RR-88/003 March 12, 1988

数式に関する例題

<< 数式の縦ぞろえに関するインデックス >>

○ align	2-12	2-15	2-17	2-18	2-20	2-29	2-30	2-33	2-37
○ split	2-4	2-9	2-10	2-13	2-14	2-16	2-38	2-41	
O multline	2-6	2-16	2-19	2-22	2-43				
O gather	2-1	2-24	2-25	2-39	2-40				
○ aligned	2-21	2-34	2-35	2-42	2-44				
○ cases	2-8	2-14	2-15	2-17	2-25				
○ matrix を使	2-6	2-28	2-33						
った縦ぞろえ									

● その他

- O matrix 2-10 2-18 2-23 2-27 2-31 2-40
- 〇 表 2-36
- \bigcirc Poor Man's Bold 2-35 2-37 2-38 2-39

$$I\equiv[0,1]\equiv\{x|0\leq x\leq 1\},$$

$$U\equiv[0,1]\times[0,1]\equiv\{(x,y)|0\leq x\leq 1 and 0\leq y\geq 1\},$$

and for each positive integer t,

$$D^t\phi(x)\equiv\frac{d^t\phi}{dx^t}(x),\quad D^t_x\phi(x,y)\equiv\frac{\partial^t\phi}{\partial x^t},\quad D^t_y\phi(x,y)\equiv\frac{\partial^t\phi}{\partial y^t}(x,y),$$

and

$$R^t \equiv \{x_1, \dots, x_t\} | x_i \text{ is a real number, } 1 \leq i \leq t\},$$

i.e. R^t is Euclidean t-space.

The L^p -norm of $D^t \phi$ is finite, i.e.

$$||D^t \phi|| \equiv \left(\sum_{i=0}^s \int_{\gamma_i}^{\gamma_{i+1}} |D^t \phi(x)|^p dx\right)^{1/p} < \infty.$$

For the special case of $p = \infty$, we will demand that

$$||D^t \phi||_{\infty} \equiv \max_{0 \le i \le \sigma} \sup_{x \in (\gamma_i, \gamma_{i+1})} |D^t \phi(x)| < \infty$$

For all $0 \le l + k \le t$, the L^p -norm of $D_x^t D_y^k$ is finite, i.e.

$$||D_x^l D_y^k \phi||_{\beta} \equiv \left(\sum_{i=0}^s \sum_{j=0}^r \int_{\gamma_i}^{\gamma_{i+1}} \int_{\mu_j}^{\mu_{j+1}} |D_x^l D_y^k \phi|^p \, dy \, dx \right)^{1/p} < \infty$$

For the special case of $p = \infty$, we will demand that

$$\|D_x^lD_y^k\phi\|_{\infty} \equiv \max_{\substack{0 \le i \le x \\ 0 \le j \le r}} \sup_{(x,y) \in (\gamma_i,\gamma_{i+1}) \times (\mu_j,\mu_{j+1})} |D_x^lD_y^k\phi(x,y)| < \infty.$$

$$PC_0^{1,p}(a,b) \equiv \{\phi \in PC^{1,2}(a,b) | \phi(a) = \phi(b) = 0\}$$

and

```
PC_0^{1,p}(U)\equiv \{\phi\in PC^{1,p}(U)|\phi(x,y)=0 \text{ for all } (x,y) \text{ in the boundary} of U, i.e. for (x,y) with x=0 or 1, or y=0 or 1.
```

THEOREM 1.2.

If
$$f \in PC_0^{1,2}(a,b)$$
, then

$$\pi^2 \int_a^b f^2(x) \, dx \le (b-a)^2 \int_a^b (Df(x))^2 \, dx.$$

Moreover, we have equality if and only if

$$f(x) = a_1 \sin(\pi (b - a)^{-1} (x - a))$$

for some real number a_1 .

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.5
%----
%
\proclaim{Theorem 1.2}\par
If $f\in PC_0^{1,2}(a,b)$, then
$$
\pi^2\int_a^bf^2(x)\,dx \le (b-a)^2\int_a^b(Df(x))^2\,dx.
$$
Moreover, we have equality if and only if
$$
{(x)=a_1\sin(\pi(b-a)^{-1}(x-a))}
$$
for some real number $a_1$.
\endproclaim
```

 $E(f) = \frac{1}{n!} E_x \left[\int_a^b D^{n+1} f(t) (x-t)_+^n dt \right],$

where

$$(x-t)_+^n \equiv \begin{cases} (x-t)^n, & x \ge t, \\ 0, & x < t, \end{cases}$$

$$f(x) = f(a) + Df(a)(x - a) + \dots + \frac{1}{n!}D^n f(a)(x - a)^n + \frac{1}{n!} \int_a^b D^{n+1} f(t)(x - t)_+^n dt$$

Theorem 1.4

If f and $g \in PC^{0,2}(I)$ and

$$(f,g)_2 \equiv \int_0^1 f(x)g(x) dx = 0,$$

then

$$||f||_2^2 + ||g||_2^2 = ||f + g||_2^2.$$

$$|D^{k-1}g(x)| = |\int_{\zeta}^{x} |D^{k}g(s)| \, ds \le \int_{0}^{1} |D^{k}g(s)| \, ds \le ||D^{k}g||^{2} = 0.$$

Theorem 1.5

If $p_n(x)$ is a polynomial of degree n = 1, 2,, or 3, then

$$\int_{a}^{b} [Dp_{n}(x)]^{2} \le 4k_{n}(b-a)^{-2} \int_{a}^{b} [p_{n}(x)]^{2} dx$$

where $k_1 \equiv 3, k_2 \equiv 15, k_3 \equiv \frac{1}{2}(45 + \sqrt{1605}) \approx 42.6$.

$$\int_{-1}^{1} L_i(x)L_j(x) = \delta_{ij} \equiv \begin{cases} 1, & i = j, \\ 0, & i \neq j \end{cases}$$

Using the representation (1.7) of $P_n(x)$ in terms of Legendre polynomials, we have

$$k_n = \sup_{\beta \neq 0} \frac{\int_{-1}^{1} [Dp_n(x)]^2 dx}{\int_{-1}^{1} [p_n(x)]^2 dx}$$
$$= \sup_{\beta \neq 0} \frac{\beta^T A \beta}{\beta^T \beta} \equiv \sup_{\beta \neq 0} R[\beta],$$

where

$$A_n \equiv [a_{ij}]_{0 \le i,j \le n} \equiv \left[\int_{-1}^1 DL_i(x)DL_j(x) \, dx \right]_{0 \le i,j \le n}$$

is symmetric, nonnegative definite and $R[\beta]$ is the Rayleigh quotient of A_n .

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.12
%-----
% No.12
%-----
%
\noindent
Using the representation (1.7) of \( \)P_n(x) \( \) in terms
of Legendre polynomials, we have
\( \)$
\split
\( k_n \) &= \sup_{\beta\ne0} \\
\sqrt{int_{-1}^1[Dp_n(x)]^2\,dx} \\
\( \) &=\sup_{\beta\ne0} \\
\sqrt{int_{-1}^1[p_n(x)]^2\,dx} \\
\( \) &=\sup_{\beta\ne0} \\
\sqrt{frac \sqrt{beta\ne0}} \\
\sqrt{frac \sqrt{beta\ne0}} \\
\sqrt{frac \sqrt{beta\ne0}} \\
\sqrt{pedayiv\sup_{\beta\ne0}} \\
\text{Reduiv\sup_{\beta\ne0}} \\
\text{Pedayiv \sqrt{left}} \\
\sqrt{equiv \sqrt{left}} \\
\sqrt{int_{-1}^1DL_i(x)DL_j(x)\,dx} \\
\sqrt{right}_{\sqrt{left}} \\
\sqrt{int_{-1}^1DL_i(x)DL_j(x)\,dx} \\
\sqrt{right}_{\sqrt{left}} \\
\sqrt{ssymmetric, nonnegative definite and \sqrt{left}} \\
\sqrt{ssteep testal} \\
\sqrt{steep testal} \\
\sqrt{steep
```

Furthermore we compute that

```
A_1 = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix}, \quad A_2 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 15 \end{pmatrix}, \quad A_3 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 & \sqrt{21} \\ 0 & 0 & 15 & 0 \\ 0 & \sqrt{21} & 0 & 42 \end{pmatrix}
```

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.13
%----
% No.13
%-----
%
\[
\text{Noindent}\]
\[
\text{Purthermore we compute that}
\[
\text{$\frac{1}{5}}
\]
\[
\text{aligned}
\]
\[
\text{$\frac{1}{5}}
\]
\[
\text{endpmatrix},
\]
\[
\text{endaligned \quad}
\]
\[
\text{aligned}
\]
\[
\text{$\frac{1}{5}}
\]
\[
\text{$\frac{1}{5}
```

```
% -----% A sample document for AMS-TeX
% ------
% No.14
%-----
%
$$

\[ \left(\sum_{i=1}^Na_i\right)^{1/p} \ left(\sum_{i=1}^Nb_i\right)^{1/q} \ $$
```

To prove the inequality (1.6) for arbitrary a and b, we use the change of independent variable

$$y \equiv 2(a-b)^{-1}(a-x) - 1$$

and obtain

$$\begin{split} \int_a^b [D_x p_n(x)]^2 &= 2(b-a)^{-1} \int_{-1}^1 [D_y p_n(a+\frac{1}{2}(y+1)(b-a))]^2 \, dy \\ &\leq \int_{-1}^1 k_n [D_y p_n(a+\frac{1}{2}(y+1)(b-a))]^2 \, dy \\ &\leq 4(b-a)^{-2} k_n \int_a^b [p_n(x)]^2 \, dx. \end{split}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.15
%----
% \noindent
To prove the inequality (1.6) for arbitrary
$a$ and $b$, we use the change of independent
variable
$$ y\equiv 2(a-b)^{-1}(a-x)-1$$
and obtain
$$
\split
\int_a^b[D_xp_n(x)]^2 &= 2(b-a)^{-1}
\int_{-1}^1 T[D_yp_n(a+\tfrac 12(y+1)(b-a))]^2\,dy \\
& \le \int_{-1}^1 Tk_n[D_yp_n(a+\tfrac 12(y+1)(b-a))]^2\,dy \\
& \le 4(b-a)^{-2}k_n\int_a^b[p_n(x)]^2\,dx.
\endsplit
$$$
```

Moreover,

$$l_0(x) \equiv \begin{cases} (x_i - x)x_1^{-1}, & 0 \le x \le x_i, \text{ and} \\ 0, & x_i \le x \le 1, \end{cases}$$

$$l_i(x) \equiv \begin{cases} (x - x_{i-1})(x_i - x_{i-1})^{-1}, & x_{i-1} \le x \le x_i, \\ (x_{i+1} - x)(x_{i+1} - x_i)^{-1}, & x_i \le x \le x_{i+1}, \text{ and} \\ 0 & 0 \le x \le x_{i-1} \text{ or } x_{i+1} \le x \le 1, \end{cases}$$

and

$$l_{N+1}(x) \equiv \left\{ egin{array}{ll} (x-x_N)(I-x_N)^{-1}, & x_N \leq x \leq 1, \ {
m and} \\ 0 & 0 \leq x \leq x_N. \end{array}
ight.$$

Theorem 2.1

If f(x,y) is defined for all $(x,y) \in U$, then

$$\mathcal{G}_{L(p)}f = \mathcal{G}_{L(\Delta_{p})}\mathcal{G}_{L(\Delta)}f = \mathcal{G}_{L(\Delta)}\mathcal{G}_{L(\Delta_{p})}f.$$

Proof. We prove only the first equality, as the second is proved the same way. By definition,

$$\begin{split} \mathcal{G}_{L(\Delta_{\mathbf{y}})} \mathcal{G}_{L(\Delta)} f &= \mathcal{G}_{L(\Delta_{\mathbf{y}})} \left[\sum_{i=0}^{N+1} f(x_i, y) l_i(x) \right] \\ &= \sum_{j=0}^{M+1} \left(\sum_{i=0}^{N+1} f(x_i, y_j) l_i(x) \right) l_j(y) \\ &= \sum_{i=0}^{M+1} \sum_{j=0}^{N+1} f(x_i, y_j) l_i(x) l_j(y) \\ &= \mathcal{G}_{L(\mathbf{y})} f. \end{split}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.17
%-----
%
\noindent
{\bf Theorem 2.1}\par
If \( \foat{f(x,y)} \) is defined for all \( \foat{x,y} \) in U\( \foat{y} \), then
\$
\( \cap{L(p)} \) f = \cal G_{L(\belta_y)} \cal G_{L(\belta_y)} \\
\( \cal G_{L(\belta_y)} \) Cal G_{L(\belta_y)} \\
\( \foat{y} \) proved
\( \foat{y} \) the same way. By definition,
\( \foat{y} \)
\( \foat{y} \) \( \cal G_{L(\belta_y)} \) \( \cal G_{L(\belta_y)} \)
\( \foat{y} \) \( \cal G_{L(\belta_y)} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\( \foat{y} \) \\
\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \( \foat{y} \) \\\( \foat{y} \) \( \fo
```

Applying this theorem to the functional e(x) for fixed $x \in [x_i, x_{i+1}]$, we have

$$e(x) = \int_{x_i}^{x_{i+1}} K_x(t) D^2 f(t) dt,$$

where

$$K_{\mathbf{z}}(t) \equiv \left\{ \begin{array}{ll} (x_{i+1} - x)(t - x_i)(x_{i+1} - x_i)^{-1}, & x_i \leq t \leq x \leq x_{t+1}, \\ (x - x_i)(x_{i+1} - t)(x_{i+1} - x_i)^{-1}, & x_i \leq x \leq t \leq x_{i+1}. \end{array} \right.$$

Thus,

$$|e(x)| \leq ||D^{2}||_{\infty} (x_{i+1} - x_{i})^{-1} \left[\int_{x_{i}}^{x} (x_{i+1} - x)(t - x_{i}) dt + \int_{x}^{x_{i+1}} (x - x_{i})(x_{i+1} - t) dt \right]$$

$$= \frac{1}{2} ||D^{2}f||_{\infty} (x_{i+1} - x_{i})^{-1} [(t - x_{i})(x_{i+1})|_{x_{i}}^{x_{i+1}} - (t - x_{i+1})^{2} (x - x_{i})|_{x}^{x_{i+1}}]$$

$$= \frac{1}{2} ||D^{2}f||_{\infty} (x_{i+1} - x_{i})^{-1} [(x - x_{i})^{2} (x_{i+1} - x) + (x - x_{i+1})^{2} (x - x_{i})].$$

In fact, if

$$H(x) \equiv \begin{cases} (x+1)^2(1-2x), & -1 \le x \le 0\\ 2x^3 - 3x^2 + 1, & 0 \le x \le 1\\ 0, & x \in R - [-1, 1], \end{cases}$$

and

$$H^{1}(x) \equiv \begin{cases} x(x+1)^{2}, & -1 \leq x \leq 0 \\ x(1-x)^{2}, & 0 \leq x \leq 1 \\ 0, & x \in R - [-1, 1], \end{cases}$$

then

$$h_i(x) = H(h^{-1}x - i), \quad 0 \le i \le N + 1,$$

and

$$h_i^1(x) = hH^1(h^{-1}x - i), \quad 0 \le i \le N + 1.$$

```
\begin{split} \mathcal{G}_{H(\Delta)}f(x) &= f_{i}[\{(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})\}^{2}\{2(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})-3\}+1] \\ &+ f_{i+1}[\{(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})\}^{2}\{-2(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})+3\}] \\ &+ f_{i}^{1}[\{(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})\}(x-x_{i})(x_{i+1}-x)^{2}] \\ &+ f_{i+1}^{1}[\{(x_{i+1}-x_{i})^{-1}(x-x_{i})\}^{2}(x-x_{i+1})], \end{split}
```

```
% No.20
%-----
% No.20
%-----
%
$ \split
\Cal G_{H(\Delta)}f(x) & = f_i [\[(x_{i+1}-x_i)^{-1} (x-x_i) \]^2\[2(x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i)-3\]+1]\\
& \quad +f_{i+1}[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i) \]^2\[-2(x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i)+3\]]\\
& \quad +f_i^1[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i)+3\]]\\
& \quad +f_i^1[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i)\) \\
& (x-x_i)(x_{i+1}-x_i)^2\\
& \quad +f_{i+1}^1[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i) \]^2\]\\
& \quad +f_{i+1}^1[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i) \]^2\\
& \quad +f_{i+1}^1[\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i) \]^2\\
& \quad +f_{i+1}^1]\((x_{i+1}-x_i)^{-1}(x-x_i) \]\\
\endsplit
$$
```

$$\mathcal{G}_{H(\Delta)}f(x) = f(x_i)[\theta^2(2\theta - 3) + 1] - f(x_{i+1})[\theta^2(2\theta - 3)] + Df(x_i)[\alpha(x - x_{i+1})(x_{i+1} - x_i)] + Df(x_{i+1})[\alpha]$$

More precisely, given $\{f_{k+i}\}_{i=0}^3$, $0 \le k \le N-2$, we define

$$p_k(x) \equiv \sum_{i=0}^3 \eta_{k,i}(x) f_{k+i},$$

where

$$\eta_{k,i}(x) \equiv \frac{\prod_{\substack{j=0\\j \neq i}}^{3} (x - x_{k+j})}{\prod_{\substack{j=0\\j \neq i}}^{3} (x_{k+i} - x_{k+j})}$$

which is the unique cubic polynomial interpolating $\{f_{k+i}\}_{i=0}^3$. If $N \geq 2$, i.e., if Δ has at least two interior points, we approximate the derivatives $f_l^1 \equiv Df(x_i), 0 \leq i \leq N+1$, in the following fashion:

$$f_{i}^{1} = Df(x_{i}) \approx \begin{cases} Dp_{i}(x_{i}), & i = 0, \\ Dp_{i-1}(x_{i}), & i = 1, \\ \frac{1}{2}(Dp_{i-2}(x_{i}) + Dp_{i-1}(x_{i})), & 2 \le i \le N - 1, \\ Dp_{i-2}(x_{i}), & i = N, \text{ and} \\ Dp_{i-3}(x_{i}), & i = N + 1. \end{cases}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.22
%-----
More precisely, given $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3,\,
0 \le k \le N-2$, we define
$$
\align
p_k(x) & \equiv \sum_{i=0}^3 \eta_{k,i}(x)f_{k+i},\\
\intertext{where}\
\eta_{k,i}(x) & \equiv
\frac{\dsize{\prod_{j=0}\atop j\ne i}^3 (x-x_{k+j})}\
\endalign
$$
\endalign
$$
\endalign
$$
\which is the unique cubic polynomial interpolating
$\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $N\ge 2$, i.e., if
$\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$. If $\left\{f_{k+i}\right\}_{i=0}^3$.
```

Moreover, the matrix of coefficients, $\Gamma_{ij} \equiv [\gamma_{mn}^{ij}]$, in (3.5) is given by

$$\Gamma_{ij} = A(\Delta x_{i-1}) K_{ij} A^T(\Delta y_{j-1}),$$

where

$$\begin{split} K_{ij} &\equiv \begin{pmatrix} B_{i-1,j-1}B_{i-1,j} \\ B_{i,j-1} & B_{i,j} \end{pmatrix}, \\ B_{l,k} &\equiv \begin{pmatrix} f(x_l,y_k) & D_y f(x_l,y_k) \\ D_x f(x_l,y_k) & D_x D_y f(x_l,y_k) \end{pmatrix}, \text{ and} \\ A(h) &\equiv \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ -3h^{-2} & -2h^{-1} & 3h^{-2} & -h^{-1} \\ 2h^{-3} & h^{-2} & -2h^{-3} & h^{-2} \end{pmatrix}. \end{split}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
% -----
% No.23
% -----
\noindent
Moreover, the matrix of coefficients, $\Gamma_{ij}\
\equiv [\gamma_{mn}^{ij}]$, in (3.5) is given by
$$\Gamma_{ij} = A(\Delta x_{i-1})K_{ij}A^T(\Delta y_{j-1}),$$
where
$$
\align
K_{ij}\equiv &
\pmatrix \format\l&\\\
B_{i-1,j-1} & B_{i-1,j}\\
B_{i,j-1} & B_{i,j}\\
\endpmatrix,
\B_{1,k}\equiv &
\pmatrix
f(x_1,y_k) & D_yf(x_1, y_k)\\
D_xf(x_1,y_k) & D_xD_yf(x_1, y_k)\\
\endpmatrix
A(h)\equiv &
\pmatrix

1 & 0 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 & 0 \\
0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 & 0 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 & 0 & 1 \\
0 &
```

Given the vector

$$f \equiv \{f_{ij}, f_{i,j}^{1,0}, f_{i,j}^{0,1}, f_{i,j}^{1,1}\}_{i=0,j=0}^{N+1,M+1}$$

we define

$$(3.3) \quad \mathcal{G}_{H(p)}f \equiv \sum_{i=0}^{N+1} \sum_{j=0}^{M+1} \{f_{ij}h_i(x)h_j(y) + f_{i,j}^{1,0}h_i^1(x)h_j(y) + f_{i,j}^{0,1}h_i(x)h_j^1(y) + f_{i,j}^{1,1}h_i^1(x)h_j^1(y)\}$$

as the interpolation mapping in H(p).

```
% A sample document for AMS-TeX
% -----
% No.24
% ----
Given the vector
$$
f_{i,j}^{i,j}, f_{i,j}^{i,j}^{i,0}, f_{i,j}^{0,1}
f_{i,j}^{i,j}^{i,1}\}_{i=0,j=0}^{i+1,M+1}
$$
we define
$$
wultline
\Cal G_{H(p)}f\equiv
\sum_{i=0}^{i=0}^{i+1}\sum_{j=0}^{i+1}\f_{ij}h_i(x)h_j(y)
+ f_{i,j}^{i,j}^{i,0}h_i^{i}(x)h_j^{i}(y)
+ f_{i,j}^{i,j}^{i,0}h_i^{i}(x)h_j^{i}(y)
+ f_{i,j}^{i,j}^{i,1}h_i^{i}(x)h_j^{i}(y)
\endmultline\tag 3.3
$$
as the interpolation mapping in $H(p)$.
```

Doing this, we find that for all $x \in [x_i, x_{i+1}]$

$$D^{j}(I-\mathcal{G}_{H})f(x) = \int_{x_{i}}^{x_{i+1}} D_{x}^{j} K_{x}(t) D^{4} f(t) dt, 0 \le i \le N,$$

where $K_x(t) \equiv (x-t)_+^4 - \mathcal{G}_H(x-t)_+^4$. As may be easily verified, $K_x(t) \geq 0$ so that

$$\begin{split} \|(I - \mathcal{G}_H)f(x)\|_{\infty} &\leq \|D^4 f\|_{\infty} \max_{0 \leq i \leq N} \int_{x_i}^{x_{i+1}} -K_x(t) dt \\ &\leq \max_{0 \leq i \leq N} \|\frac{1}{4!} (x - x_i)^2 (x - x_{i+1})^2 \|_{\infty} \|D^4 f\|_{\infty} \\ &\leq \frac{1}{384} h^4 \|D^4 f\|_{\infty}. \end{split}$$

$$\left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (f(x) - \mathcal{G}_{H}f(x))^{2} dx\right)^{2} \\
\leq \left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (f(x) - g(x))^{2} dx\right)^{1/2} + \left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (q(x) - \mathcal{G}_{H}q(x))^{2} dx\right)^{1/2} \\
\leq \pi^{-3} (x_{i+1} - x_{i})^{3} \left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (D^{3}f)^{2} dx\right)^{1/2} + \pi^{-4} (x_{i+1} - x_{i})^{4} \left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (D^{4}q(x))^{2} dx\right)^{1/2} \\
\leq \pi^{-3} (x_{i+1} - x_{i})^{3} (1 + \pi^{-1}2\sqrt{15}) \left(\int_{x_{i}}^{x_{i+1}} (D^{3}f(x))^{2} dx\right)^{1/2}.$$

$$\begin{split} \|x^{\alpha} - \widehat{\mathcal{G}}_{H(\Delta_{\alpha,N}^{1})} x^{\alpha}\|_{\infty} \\ &\leq \max\left(1, \frac{1}{384} 2^{4(g-1)}\alpha |\alpha - 1\|\alpha - 2\|\alpha - 3|\right) (N+1)^{-4} \end{split}$$

We define their tensor or Kronecker product as the $mn \times mn$ matrix $B \otimes C$ given by

$$B \bigotimes C \equiv \begin{pmatrix} b_{11}C & \dots & b_{1n}C \\ \vdots & & \vdots \\ b_{n1}C & \dots & b_{nn}C \end{pmatrix}$$

and in particular $A_{L(p)} = A_{L(\Delta)} \otimes A_{L(\Delta_p)}$.

Prove analogues of the results of Section *.* for the nonlinear two-point boundary value problem of order 2n, i.e. find $u \in PC^{n,2}(I)$ such that

$$\sum_{i=0}^{n} (-1)^{i} D^{i}[p_{i}(x)D^{i}u(x)] = f(x,u), \quad 0 < x < 1,$$
$$D^{i}u(0) = D^{i}u(1) = 0, \quad 0 \le i \le n - 1,$$

where the coefficients $p_i(x), 0 \le i \le n$, satisfy the hypotheses of Exercise (**.**),

$$f(x,u), \frac{\partial f}{\partial u}(x,u) \in C([0,1] \times (-\infty,\infty)),$$

$$\left| \frac{\partial f}{\partial u}(x,u) \right| \le B \text{ for all } (x,u) \in [0,1] \times (-\infty,\infty), \text{ and}$$

$$\frac{\partial f}{\partial u}(x,u) \le \lambda < \Lambda \equiv \inf_{w \in PC_0^{n,2}(I)} \int_0^1 \frac{\sum_{i=0}^n p_i(x) [D^i w(x)]^2 dx}{\int_0^1 [w]^2 dx}$$

Hint: Use the functional

$$F[w] \equiv \int_0^1 \left\{ \sum_{i=0}^n p_i(x) [D^i w]^2 dx - 2 \int_0^{w(x)} f(x, t) dt \right\} dx.$$

$$-D[p(x)Du_B] + q(x)u_B = f(x, \xi_B(u_B)), \quad 0 < x < 1,$$

$$u_B(0) = u_B(1) = 0,$$

where

$$\xi_B(u_B) \equiv \begin{cases} B + 1 - e^{B - u_B}, & B < u_B, \\ u_B, & |u_B| \le B, \\ -B - 1 + e^{B + u_B}, & u_B < -B \end{cases}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
% No.30
%----
$ No.30
%----
$
\( \text{yather} \)
-D[p(x)Du_B] + q(x)u_B = f(x,\xi_B(u_B)), \quad 0 < x < 1,\\\
u_B(0) = u_B(1) = 0, \\
endgather
$$
where
$$
\( \text{xi_B(u_B)} \)
\( \text{cases} \)
\( B + 1 - e^{B-u_B}, & B < u_B,\\\
u_B, & |u_B| \]
\( -B - 1 + e^{B+u_B}, & u_B < -B \)
\( \text{endcases} \)
$$
\( \text{endcases} \)
$$
\( \text{endcases} \)
$$
\( \text{endcases} \)
$$
\( \text{endcases} \)
$$
\( \text{endcases} \)
\( \text{endcas
```

Let $\{B_i(x)\}_{i=1}^n$ denote n linearly independent basis functions in $PC^{0,2}(I)$ and $f \in PC^{0,2}(I)$. We consider the least squares variational problem of finding $\beta^* \in \mathbb{R}^n$ such that

(6.1)
$$\phi(\beta^*) = \inf_{\beta \in R^n} \phi(\beta) \equiv \inf_{\beta \in R^n} \|f - \sum_{i=1}^n \beta_i B_i\|_2^2.$$

The function

$$\phi(\beta) = \|f\|_2^2 - 2(f, \sum_{i=1}^n \beta_i B_i)_2 + \|\sum_{i=1}^n \beta_i B_i\|_2^2$$

is clearly quadratic in $\beta \in \mathbb{R}^n$ and hence β^* is a solution of (6.1) if and only if

$$(6.2) D_i \phi(\beta^*) = 0, \quad 1 \le i \le n,$$

and the matrix $J[\beta^*] \equiv [D_i D_j \phi(\beta^*)]$ is positive definite.

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.31
%-----
Let $\{B_i(x)\}_{i=1}^n$ denote n linearly independent
basis functions in $PC^{0,2}(I)$ and $f\in PC^{0,2}(I)$.
We consider the least squares variational problem of
finding $\beta^*\in R^n$ such that
$$
\text{phi (\beta^*) = \inf_{\beta\in R^n} \phi(\beta)\equiv
\inf_{\beta\in R^n}\|f - \sum_{i=1}^n\beta_iB_i\|_2^2.
\tag 6.1
$$
The function
$$
\text{Phi(\beta)=\|f\|_2^2-2(f, \, \sum_{i=1}^n\beta_iB_i)_2
+ \|\sum_{i=1}^n\beta_iB_i\|_2^2
$$
is clearly quadratic in $\beta\in R^n$ and hence $\beta^*$$
is a solution of (6.1) if and only if
$$ D_i\phi(\beta^*)=0, \quad 1\le i\le n, \tag6.2$$
and the matrix $J[\beta^*]\equiv [D_iD_j\phi(\beta^*)]$ is
positive definite.\par
```

$$A_h \equiv rac{6}{h} \left(egin{array}{ccccc} 2 & 1 & & & & O \\ 1 & 4 & \ddots & & & & \\ & \ddots & \ddots & \ddots & & \\ & & \ddots & 4 & 1 \\ O & & & 1 & 2 \end{array}
ight)$$

$$A_{L(p)} = \begin{pmatrix} \ddots & & \ddots & \ddots & \\ & \ddots & & \ddots & \\ \ddots & & \ddots & & \ddots \\ 0 & \ddots & & & \ddots \end{pmatrix}$$

In the special case of a uniform partition with mesh length $h = (N+1)^{-1}$, the basis functions $s_i(x), -3 \le i \le N$, can be expressed in terms of a "standard" basis function, S(x). In fact, if

$$S(x) \equiv \begin{cases} (2-x)^3/24 - (1-x)^3/6 - x^3/4 + (1+x)^3/6, & -2 \le x \le -1, \\ (2-x)^3/24 - (1-x)^3/6 - x^3/4, & -1 \le x \le 0, \\ (2-x)^3/24 - (1-x)^3/6, & 0 \le x \le 1, \\ (2-x)^3/24, & 1 \le x \le 2, \\ 0, & x \in R - [-2, 2], \end{cases}$$

then $s_i(x) = S(h^{-1}x - i - 2), -3 \le i \le N.$

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.34
%-----
In the special case of a uniform partition with mesh
length $h = (N+1) {-1}$, the basis functions $s_i(x),
-3\le i\le N$, can be expressed in terms of a
{\lq\lq standard\rq\rq} basis function, $$(x)$. In fact, if
$$
$(x)\equiv
\left\{
    \matrix\format\l\\
    (2-x)^3/24 - (1-x)^3/6-x^3/4+(1+x)^3/6,\qquad -2\le x\le -1,\\
    (2-x)^3/24-(1-x)^3/6-x^3/4, \qquad -1\le x\le 0,\\
    (2-x)^3/24-(1-x)^3/6,\qquad 0\le x\le 1,\\
    (2-x)^3/24, \qquad 1\le x\le 2, \\
    0, \qquad x\in R -[-2,2],
    \endmatrix
    right.
$$
then $$s_i(x)=$(h^{-1}x-i-2),\; -3\le i\le N$.\par
```

Theorem 6.11

If
$$f \in PC^{4,2}(I)$$
, then

(6.42)
$$||f - P_{H(\Delta)}f||_2 \le \pi^{-4} h^4 ||D^4 f||_2,$$

(6.43)
$$||D(f - P_{H(\Delta)}f)||_2 \le \pi^{-3} (1 + 2\sqrt{90 + 2\sqrt{1605}}\pi^{-1}\underline{h}^{-1}h)h^3||D^4f||_2,$$

and

(6.44)
$$||D^{2}(f - P_{H(\Delta)}f||_{2} \le \pi^{-2}(1 + 4\sqrt{1350 + 30\sqrt{1605}}\pi^{-2}\underline{h}^{-2}h^{2})||D^{4}f||_{2}.$$

Theorem 6.12

If $f \in PC^{4,\infty}(I)$, then

(6.45)
$$||f - P_{H(\Delta)}f||_2 \le \frac{11}{5760} h^4 ||D^4 f||_2,$$
(6.46)
$$||D(f - P_{H(\Delta)}f)||_2 \le \frac{1}{120} (1 + 2\underline{h}^{-1}ih)h^3 ||D^4 f||_2,$$

(6.46)
$$||D(f - P_{H(\Delta)}f)||_2 \le \frac{1}{120} (1 + 2\underline{h}^{-1}ih)h^3 ||D^4f||_2,$$

and

(6.47)
$$||D^{2}(f - P_{H(\Delta)}f||_{2} \leq \frac{1}{60}(6 + 5\underline{h}^{-2}h^{2})||D^{4}f||_{2}.$$

```
A sample document for AMS-TeX
                                 % No.36
                              \noindent
                      [\bf Theorem 6.12]\par
If $f\in PC^{4,\infty}(I)$, then
$$;
$$ \align \| \frac{1}{5760} \\ \hat{4} \\ \partial \partial \partial \frac{1}{5760} \\ \hat{4} \\ \partial \partial \frac{1}{5760} \\ \hat{4} \\ \partial \partial \frac{1}{120} \\ \partial \frac{1}{12
```

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.37
%------
\font\b=cmrl0 scaled\magstep4
\def\bigzerol[\smash[\hbox[\b 0]]]
\def\bigzerou[\smash[\hbox[\b 0]]]
\def\bigzerou[\smash[\hbox[\b 0]]]
\$$

A_h \equiv
\pmatrix
\format\r&\quad\r&\quad\r&\quad\r&\quad\r&\quad\r&\quad\r&\quad\r\
\frac2[15]& -\frac1[10]&-\frac130]&0 &0 &&&&&&& \\
-\frac1[10]& \frac[12]5& 0 & -\frac65& \\
\frac1[10]& \& frac[12]5& 0 & -\frac65& \\
-\frac1[30]& 0 & \frac4[15]&-\frac1[10]& \\
-\frac1[30]& \frac4[15]&-\frac1[10]& \\
& \frac65& -\frac1[10]& \frac4dots& \frac4\dots& \frac4\dots& \frac65& \\
& \frac1[10]& \frac65& \frac66$\\
& \frac6& \frac66& \frac66& \frac65& \frac66& \frac66
```

Theorem 7.24

If $u \in PC^{4,2}(U) \cap PC_0^{1,2}(U)$, then

$$||u - u_H||_D \le \gamma^{-1/2} \mu^{1/2} \pi^{-3} (1 + \pi^{-1} 2^{1/2} 9) \overline{\rho}^3 ||u||_{4,2},$$

where $\|u\|_{4,2} \equiv \sum_{k+j=4} \|D_x^k D_y^j u\|_2$ and u_H is the RRG approximation to u over

 $H_0(\rho) \equiv \{h(x,y) \in H(\rho) | h(x,y) = 0 \text{ for all } (x,y) \in \text{ boundary of } U\}.$

```
% A sample document for AMS-TeX
% No.38
%----
% No.38
%----
\noindent
{\bf Theorem 7.24}\par
If $u\in PC^{4,2}(U) \cap PC_0^{1,2}(U)$, then
$$
\\u-u_H\\_D \le \gamma^{-1/2}\mu^{1/2}\pi^{-3}\\(1 + \pi^{-1}2^{1/2}9)\overline{\rho}^3\\u\\_{4,2},
$$
where $\|u\\_{4,2}\equiv \sum_{k+j=4}\\D_x^kD_y^ju\\_2$
and $u_H$ is the RRG approximation to $u$ over
$$
H_0(\rho)\equiv\{h(x,y)\in H(\rho) |
h(x,y)=0 \text{ for all } (x,y)\in \text{ boundary of $U$}\}.
```

Moreover, each eigenvalue, $\lambda_j, j \geq 1$, can be characterized as

```
\inf\{R[w]|w \in PC_0^{1,2}(I) \text{ such that } b(w,u_k) = 0, 1 \le k < j\},\
     \begin{cases} \min\{\max_{c_1,\dots,c_j} R\left[\sum_{i=1}^j c_i v_i\right] | v_1(x),\dots,v_j(x) \in PC_0^{1,2}(I) \\ \text{linearly independent} \end{cases}.
  A sample document for AMS-TeX
   No.39
\noindent
Moreover, each eigenvalue, $\lambda_j, j\ge 1$,
can be characterized as
\lambda = \lambda_j =
left\[\matrix\format\l\\
\inf\[R[w] | w\in PC_0^{1,2}(I) \text{ such that }
b(w,u,k)=0, l\le k < j \}, \\</pre>
    \qquad\qquad\qquad
\text[linearly independent] \}.
          \endmatrix
\right.
```

The restriction of R can be viewed as

$$R\left[\sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}(x)\right] = \frac{a\left(\sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}, \sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}\right)}{b\left(\sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}, \sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}\right)}$$

$$\equiv \left(a\left[\sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}\right]\right) \left(b\left[\sum_{i=1}^{n} \beta_{i} B_{i}\right]\right)^{-1}$$

```
A sample document for AMS-TeX
  No.40
\noindent
The restriction of $R$ can be viewed as
$$
\align
\beta_iB_i\right]\right)^{-1}.
\endalign
$$
```

Theorem 9.4

If a(u,v) is strongly coercive and $u\in PC^{3,\infty}(I\times(0,\infty))$, then

(9.18)
$$\|(u - u_L)(t)\|_2 \le \gamma^{-1/2} \mu^{3/2} \pi^{-2} \Gamma h^2 \|D_x^2 u(t)\|_2$$

$$+ [(1 + \gamma^{-1/2} \mu^{3/2} \Gamma)^2 \|D_x^2 u_0\|_2^2 + t(2\gamma \pi^2)^{-1} \gamma^{-1} \mu^3 \Gamma^2$$

$$\times \sup_{0 \le s \le t} \|D_t D_x^2 u(s)\|_2^2]^{1/2} \pi^{-2} h^2, \qquad t \ge 0,$$

where u_L is the semi-descrete Galerkin approximation to u over $L_0(\Delta)$.

```
% A sample document for AMS-TeX
%-----
% No.41
%----
\noindent
[\bf Theorem 9.4\ \par
If \( \square\) (I \times \( (0 \, \square\) )\( \square\), then
$\\
\square\) \\
\( \square\) \\
\
```

```
||u_{S}^{p,q}(t_{j})||_{2} \leq \Lambda^{1/2}|\beta^{p,q}(j)|_{2}
\leq \Lambda^{1/2}|B^{-1/2}|_{2}|\gamma_{j}(p,q)|_{2}
\leq \Lambda^{1/2}|B^{-1/2}|_{2}\{|E^{-1}c|_{2} + |R_{p,q}^{j}(\Delta tE)|_{2} |h - E^{-1}c|_{2}\}
\leq \Lambda^{1/2}|B^{-1/2}|_{2}\{|B^{1/2}A^{-1}k|_{2}
+ |R_{p,q}^{j}(\Delta tE)|_{2}|B^{-1/2}g - B^{1/2}A^{-1}k|_{2}\}
\leq \Lambda^{1/2}|B^{-1/2}|_{2}|B^{1/2}|_{2}\{|A^{-1}k|_{2}
+ |R_{p,q}^{j}(\Delta tE)|_{2}(|B^{-1}g|_{2} + |A^{-1}k|_{2})\}.
```

$\Delta(h)$			
h	$\dim S(\Delta(h))$	$\ e^x-\mathcal{G}_{S(\Delta(h))}e^x\ $	
$\frac{1}{4}$	7	0.26×10^{-4}	
$\frac{1}{5}$	8	0.11×10^{-4}	
$\frac{1}{6}$	9	0.53×10^{-5}	
$\frac{1}{7}$	10	0.29×10^{-5}	
$\frac{1}{11}$	11	0.17×10^{-5}	

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.43
%-----
$
\vbox{
\offinterlineskip
\def\tablerule\noalign\hrule}}
\halign\{\strut#&\vrule#&
\quad\hfil#\hfil\quad&\vrule#&
\quad\hfil#\hfil\quad&\vrule#\cr\tablerule
&&\multispan5\hfil \\polta(h)\\hfil&\cr\tablerule
&&\sh\ &&
\\sh\ &&
\\chinx-[\Cal G]_[S(\Delta(h))]e^x\|\\phi\\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{ar}\\end{a
```

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \int_0^1 (\mathbf{u}, R\mathbf{u}) \, dt &= \frac{1}{2} \int_0^1 (R^{-1} B^T \lambda, RR^{-1} B^T \lambda) \, dt \\ &= \frac{1}{2} \int_0^1 (BR^{-1} B^T \lambda, \lambda) \, dt, \end{aligned}$$

and

$$\begin{split} &\frac{1}{2} \int_{0}^{1} (\mathbf{x}, Q\mathbf{x}) \, dt = \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}A^{T}\lambda + Q^{-1}D_{i}\lambda, A^{T}\lambda + D_{i}\lambda) \, dt \\ &= \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}D_{i}\lambda, D_{i}\lambda) \, dt + \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}A^{T}\lambda, A^{T}\lambda) \, dt \\ &\quad + \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}A^{T}\lambda, D_{i}\lambda) \, dt + \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}D_{i}\lambda, A^{T}\lambda) \, dt \\ &= \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (Q^{-1}D_{i}\lambda, D_{i}\lambda) \, dt + \frac{1}{2} \int_{0}^{1} (AQ^{-1}A^{T}\lambda, \lambda) \, dt \\ &\quad + \int_{0}^{1} (AQ^{-1}D_{i}\lambda, \lambda) \, dt. \end{split}$$

```
% A sample document for AMS-TeX
%------
% No.44
%-----
\def\pmb#1[\setbox0=\hbox{#1}
    \kern-.025em\copy0\kern-\wd0
    \kern.05em\copy0\kern-\wd0
    \kern-.025em\raise.0433em\box0}
\define\blambda[\pmb[$\lambda$]

\setime\blambda[\pmb[$\lambda$]

$$
\align
\tfracl2\int_0^1([\bold u], R[\bold u])\,dt
&= \tfracl2\int_0^1(R^{-1}B^T\blambda,
    RR^{-1}B^T\blambda)\,dt
\\
&= \tfracl2\int_0^1(BR^{-1}B^T\blambda,
    \blambda)\,dt,\\
\intertext{and}
\tfracl2\int_0^1(Q^{-1}A^T\blambda
    +0^{-1}D_i\blambda, A^T\blambda
    +0^{-1}D_i\blambda, A^T\blambda
    +D_i\blambda)\,dt\\
&= \tfracl2\int_0^1(Q^{-1}A^T\blambda,
    D_i\blambda)\,dt + \tfracl2\int_0^1
    \(Q^{-1}A^T\blambda, A^T\blambda)\),dt\\
& \quad +\tfracl2\int_0^1(Q^{-1}A^T\blambda,
    D_i\blambda)\,dt + \tfracl2\int_0^1(Q^{-1}D_i\blambda,
    \blambda)\,dt + \tfracl2\int_0^1(Q^{-1}D_i\blambda,
    \blambda)\,dt + \tfracl2\int_0^1(Q^{-1}D_i\blambda,
    \blambda)\,dt.
\endalign
\$$
\endalign
\$$
\endalign
\$$
\text{endalign}
\$$
\endalign
\$$
\endalign
\$$
\endalign
\$$
\text{endalign}
\text{endalign}
\text{endalign}
\endalign
\}$
\text{endalign}
\text{endalign}
\text{endalign}
\endalign
\endalign
\text{endalign}
\tex
```

Applying the Gronwall Inequality (cf.[105]), to this last inequality, we obtain

$$|\epsilon_s(t)|_2 \le ||B||_2 ||\delta_s||_2 e^{\int_0^1 |A(z)|_2 dz}$$

and

$$\begin{split} |\epsilon_s||_2^2 &\equiv \int_0^1 |\epsilon_s(t)|_2^2 dt \le ||B||_2^2 ||\epsilon_s||_2^2 e^{2\int_0^1 |A(z)|_2 dz} \\ &\equiv \Gamma^2 ||\mathbf{u}^* - \mathbf{u}_s||_2^2. \end{split}$$

Theorem 10.8

If $\lambda^* \in \overset{n}{\underset{\leftarrow}{\times}} [PC^{2,2}(I)]_i$, then there exists a positive constant, K, such that

(10.34)
$$\|\lambda^* - \lambda_{\widetilde{H}_0^n}\|_2 \le Kh^3, \qquad \|\lambda^* - \lambda_{\widetilde{S}_0^n}\|_2 \le Kh^3$$
(10.35)
$$\|\mathbf{u}^* - \mathbf{u}_{\widetilde{H}_0^n}\|_2 \le Kh^3, \qquad \|\mathbf{u}^* - \mathbf{u}_{\widetilde{S}_0^n}\|_2 \le Kh^3$$

(10.35)
$$\|\mathbf{u}^* - \mathbf{u}_{\widetilde{H}^n}\|_2 \le Kh^3, \qquad \|\mathbf{u}^* - \mathbf{u}_{\widetilde{S}^n}\|_2 \le Kh^3$$

(10.36)
$$J[\mathbf{u}^*, \mathbf{x}^*] \le J[\mathbf{u}_{\widetilde{H}_0^h} \mathbf{x}_{\widetilde{H}_0^h}] \le J[\mathbf{u}^*, \mathbf{x}^*] + Kh^6,$$

(10.37)
$$J[\mathbf{u}^*, \mathbf{x}^*] \le J[\mathbf{u}_{\widetilde{S}_n^n}^* \mathbf{x}_{\widetilde{S}_n^n}] \le J[\mathbf{u}^*, \mathbf{x}^*] + Kh^6.$$

```
A sample document for AMS-TeX
                    No.46
  \def\pmb#1{\setbox0=\hbox{#1}
    \kern-.025em\copy0\kern-\wd0
    \kern.05em\copy0\kern-\wd0
    \kern-.025em\raise.0433em\box0}
     \define\blambda[\pmb[$\lambda$}]
     \noindent
     (NotIndering in the continuous in the conti
       then there exists a positive constant, $K$, such that
$$
\gather
\\blambda^*-\blambda_{\widetilde H}_0^n}\|_2 \le Kh^3,
\qquad \|blambda^*-\blambda_{\widetilde S}_0^n}\|_2
\le Kh^3\taq10.34\\
\\[\bold u\]^*-\bold u\]_{\widetilde H}_0^n\\|_2 \le Kh^3,
\qquad \\[\bold u\]^*-\bold u\]_{\widetilde S}_0^n\\|_2
\le Kh^3\taq10.35\\
J[\bold u\]^*, \\bold x\]^*\\
J[\bold u\]_{\widetilde H}_0^\hat n\}
\\[\bold x\]_{\widetilde H}_0^\hat n\}\]
\\le J[\bold u\]^*, \\bold x\]^*\] + Kh^6,\taq10.36\\
J[\bold u\]^*, \\bold x\]^*\]\\le J[\bold u\]_{\widetilde S}_0^n\]
\\\le J[\bold u\]^*, \\bold x\]^*\] + Kh^6.\\taq10.37
\\\\end{andather}
        \endgather
```

(4)
$$\Delta_{n} = \begin{vmatrix} \mu_{0} & \mu_{1} & \dots & \mu_{n} \\ \mu_{1} & \mu_{2} & \dots & \mu_{n+1} \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ \mu_{n} & \mu_{n+1} & \dots & \mu_{2n} \end{vmatrix} \equiv |\mu_{i+j}|_{i,j=0}^{n}; \quad n = 0, 1, 2, \dots,$$

$$(5) \Delta_{n}^{(1)} = \begin{vmatrix} \mu_{1} & \mu_{2} & \dots & \mu_{n} & \mu_{n+1} \\ \mu_{2} & \mu_{3} & \dots & \mu_{n+1} & \mu_{n+2} \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ \mu_{n+1} & \mu_{n+2} & \dots & \mu_{2n} & \mu_{2n+1} \end{vmatrix} \equiv |\mu_{i+j+1}|_{i,j=0}^{n}; \quad n = 0, 1, 2, \dots.$$

```
% A sample document for AMS-TeX
%
**-----

$ No.47
%
*----

$ No.47
%
*----

$ yather

| Delta_n = |
| \text{vmatrix} \text{mu_0 & \text{mu_1 & \text{hdots & \text{mu_n \text{nu_1 & \text{hdots for 4\text{\text{hdots for 4\text{\text{mu_1 & \text{hdots, \text{tag4\text{\text{\text{belta_n^{(1)}} = 0, 1, 2, \text{dots, \text{tag4\text{\text{\text{mu_1 & \text{mu_2 & \text{hdots & \text{mu_n & \text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{mu_2 & \text{hdots & \text{mu_n & \text{\text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{\text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{mu_1 & \text{\text{mu_1 & \text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text
```

Intorducing the difference

```
\Delta^{0} \mu_{\nu} = \mu_{\nu}
\Delta^{1} \mu_{\nu} = \mu_{\nu} - \mu_{\nu+1},
\dots
\Delta^{k} \mu_{\nu} = \mu_{\nu} - \binom{k}{1} \mu_{\nu+1} + \binom{k}{2} \mu_{\nu+2} + \dots + (-1)^{k} \mu_{\nu+k} = \mu(t^{\nu}(1-t)^{k}),
```

Using the recurrence relations, it is readily found that

```
\begin{cases} A_{n+1}(z) = z \sum_{\nu=0}^{n} P_{\nu}(0) P_{\nu}(z) (\beta_{0}, \dots, \beta_{\nu})^{-1} = z \sum_{\nu=0}^{n} \chi_{\nu}(0) \chi_{\nu}(z), \\ B_{n+1}(z) = -1 + z \sum_{\nu=0}^{n} P_{\nu}(0) Q_{\nu}(z) (\beta_{0}, \dots, \beta_{\nu})^{-1} = -1 + \sum_{\nu=0}^{n} \chi_{\nu}(0) \omega_{\nu}(z), \\ C_{n+1}(z) = 1 + z \sum_{\nu=0}^{n} Q_{\nu}(0) P_{\nu}(z) (\beta_{0}, \dots, \beta_{\nu})^{-1} = 1 + \sum_{\nu=0}^{n} \omega_{\nu}(0) \chi_{\nu}(z), \\ D_{n+1}(z) = z \sum_{\nu=0}^{n} Q_{\nu}(0) Q_{\nu}(z) (\beta_{0}, \dots, \beta_{\nu})^{-1} = z \sum_{\nu=0}^{n} \omega_{\nu}(0) \omega_{\nu}(z). \end{cases}
```

We have two identities[Perron, 1]:

```
\begin{split} \omega_{2n}'(z)^2 \int_0^\infty \frac{d\Psi}{z-t} - \omega_{2n}'(z) \int_0^\infty \frac{\omega_{2n}'(z) - \omega_{2n}'(t)}{z-t} \, d\Psi(t) \\ - \int_0^\infty \omega_{2n}'(t) \frac{\omega_{2n}'(z) - \omega_{2n}'(t)}{z-t} \, d\Psi(t) = \int_0^\infty \frac{\omega_{2n}'(t)^2}{z-t} \, d\Psi(t), \\ \omega_{2n+1}'(z)^2 \int_0^\infty \frac{d\Psi}{z-t} - \omega_{2n+1}'(z) \int_0^\infty \frac{\omega_{2n+1}'(z) - \omega_{2n+1}'(t)}{z-t} \, d\Psi(t) \\ - \int_0^\infty \omega_{2n+1}'(t) \frac{\frac{\omega_{2n+1}'(z) - \omega_{2n+1}'(t)}{z-t}}{z-t} \, d\Psi(t) \\ = z \int_0^\infty \frac{\omega_{2n+1}'(t)^2}{t} \frac{d\Psi(t)}{z-t}. \end{split}
```

```
% A sample document for AMS-TEX
%------
% No.51
%-----
$ No.51
%-----
$ No.51
%-----
$ \left\{
    aligned
    &\text{1.} \rho_{0,n}+\rho_{1,n}+\dots + \rho_{j-1,n}\\
    &\quad\quad \le \int^{x_{jn}-0}d\Psi\,
    \\ \int_{0,n}+\rho_{1,n}+\dots + \rho_{j,n}\, \quad
    \\    j=1,2\dots,n\\
    &\text{2.} \\int_{x_{j+1,n}+0}^{x_{j+1,n}+0}\text{k+1,n}-0\d\Psi\ge
    \\    \rho_{j,n}+\rho_{j+1,n}+\dots + \rho_{k,n}\ge
    \\    \rho_{j,n}+\rho_{j,n}+\rho_{j,n}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{3.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}+\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{4.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}+\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{4.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}+\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{4.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{5.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{5.} \    \int_{a}^{x_{j}}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{6.} \    \rho_{j,n}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\text{6.} \    \rho_{j,n}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\rho_{j,n}\\
    &\quad\quad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qquad\qqua
```

APPENDIX

The TaO of TeX (version 0) (Gourmet Guide ~) 訂正表 3.10.1988

ページ	誤(error)	正(correct)
A – 1	[注] (1) ~ <u>よな</u> 形式	~ <u>ような</u> 形式
A – 3	(3) \proclaim イタリック体	斜体(Slanted)
A – 5	<ページがえ> <u>∖nonpagebreak</u>	∕ nopagebreak
A – 9	(1) 分数,連分数 or \$\$z= { {x +y↑2} <u>choose</u> {x -y↑2}	<u>over</u> {x -y↑2 } }
A - 12	(ハ) \align の前に \allowdisplaybreak	<u>∖allowdisplaybreaks</u>
A - 12	multiline	\multline
	\ <u>endmultiline</u>	<u>endmultline</u>
A – 13	各列の幅を調節するコマンドとして \xaligned, \xxaligned	xalignat, xxalignat
A - 1 6	[注2] \pageinfo	\paperinfo
インデッ クス	O <u>multiline</u>	<u>multline</u>